

# 公害拒絶に協力闘争

## 「新潟水俣病会議」の一行離熊

二十一日から水俣市を訪れていた、新潟水俣病の被災者代表ら

「新潟民主団体水俣病対策会議」の一行十二人は、二十四日新潟へ帰った。

一行の目的は、さきほど水俣市で結成された「水俣病対策市民会議」(日吉フミ子会長、会員百二十人)と合流、結されている発生原因の追及や、被災者家族の救済措置実現を協賛して、共闘体制で

政府に働きかけようというもの。地元関係者の案内で水俣病患者のいる水俣市街の兜のリハビリテーションセンターも原因調査に当たった。大田幸夫、チツソ水俣工場、患者の健康などを訪問して水俣病の

ろんな問題を話し合った。

二十四日は水俣病患者家庭互助会、水俣病対策市民会議、阿賀野川有機水銀中毒被災者の会、新潟県民主団体水俣病対策会議連名で

①わたしたちは政府が科学者の結論を直ちに認め、責任をもって事件を解決することにも、被災者の生活を保障する具体的な措置を要求する。②わたしたちは三日間の交渉の中で、水俣と新潟が堅く手を結ぶとともに、全国の公害地の人々が団結して闘うこと、公害拒絶の道であること、健康を守る。③命を守るために、ともに闘いましょう。この共同声明を発表、市

民に協力を呼びかけて、帰途についた。

一行は熊本発上り特急みずほでいったん東京へ向かい、政府関係者に共同声明書と第一、第二の水俣病の早急な救済措置を要求したあと、新潟へ帰る予定。